

留学体験記12月

秋学期の試験が12月の中旬にかけて終わりました。私の取っていたBugs and Peopleという授業ではそれぞれ選んだ昆虫についてのグループ発表が最後にありました。内容はLove Bugというフロリダ周辺に生息する昆虫についてです。私はほとんどしゃべることがなかったので気楽に終わられました。準備段階ではお菓子を使ってモデルを作ったり、簡単なポスターを作りました。メンバーが良い人達だったので、楽しく準備できて思い出に残る授業でした。また、他のグループの個性豊かな発表を聞くことができ良かったです。一番印象に残ったものは発表の時に一人で音楽をかけて歌っていたグループです。ノリノリだったので面白かったです。また別のSocial Problemの授業では、対面でマークシートと少しだけ記述のテストがありました。記述の配点が重かったのですが、要求されたセンテンス数に満たなかったため、おそらく点数は半分いったかいてないくらいです…。課題はレポートとテストだけで複雑なものはありません。教科書はハードですが、内容は興味深いのでおすすめです。

これはどの授業にもいえることですが、とにかく授業や課題の内容が複雑なので、それを理解するだけでも大変です。大量の英語のPDFや、デジタル上で色んなアプリを使って行われるので正直、何がなんだかわからなくなります。私も理解してないままなんとなく授業を受けていたので、大切な情報を見落とししたり、やらなくてはいけないことをやってなかったりしました。これは島大の授業でも同じでしたが…。特にエッセイはどの授業でも求められます。私は日本語だとしても苦手なのでこれは英語だと二重苦です。島大にいる間に、たとえ日本語でも書く練習をすればよかったなと後悔しています。皆さんには僕のようにならず、授業をまずは頑張ってもらいたいです。留学は色んな新しいことをやる良い機会です。しかし、授業をおろそかにせず地に足をつけて身近な生活から海外に慣れていくことが長続きするコツだと思います。

さて、勉強の話はさておき、こちらも冬休みに入りました。年末年始を挟んでちょうど一か月あります。こっちの学生はほぼ100%実家に帰るので、私も大学を離れて何をしようかと考えました。一つあったのは冬なのでスキーがしたいということ。また、「深夜特急」や「into the wild」という映画を観て海外で一人旅というものにあこがれがありました。そこで自分にとっては大きなチャレンジでしたが鉄道でアメリカ周遊をしようと思いました。車社会のアメリカですが、唯一「Amtrack」というJRのような旅客鉄道があります。いろいろアメリカの都市を巡りながら友達のいるバンクーバーでスキーをして帰ってこようと思いつきました。寝台列車ではないので何十時間も乗り続けるのはハードですが、他の移動手段は今更もうないので無理をしてでも頑張ろうと決めました。大体のルートは

Florida(orland)→NewYork→Chicago→Seattle→Vancouver
Vancouver→Los Angeles→Chicago→Florida(Gainesville)

です。うまく行くか不安のなか準備を進めました。(アメリカ行く時より不安でした。)

12月13日、まずはNYまで北上しました。20時間ほどです。運よく隣の席の人がドイツから来ている学生だったので多少話して、NYではたっかいバーガーと一緒に食べました。NYは石・レンガ造りの巨大なビルが印象的でした。東京よりも歴史を感じる国際都市でした。チャイナタウンのホステルで一泊して、次はシカゴへと西へ向かいました。隣の席の白人のおじいちゃんが実は数週間前に日本を旅行していたようで、いろいろ話してくれました。今まであまりアメリカの歴史について考えることはなかったのですが、日本と比べた時の歴史の短さや移民国家であることを話の中で、改めて実感しました。印象はアメリカ第三の都市ということもあり、これまた巨大なビル街でしたが、NYと比べると人が全然いません。お店もなく、無機質な印象でした。シカゴ特有の高架鉄道がそんなビルの間を轟音で駆け抜けていました。次は西海岸のシアトルまで約50時間です。私も、さすがに疲れていたため次は

一人で座りたいと思っていました。運よく人も少なく、少し走ったら一人になりました。とか隣に座っていた子が家出だったみたいで途中で降ろされていました。何も知らなかったのですが、私も急に警察に話しかけられてビビりました。期待していたロッキー山脈の景色は夜中だったため残念ながら見られませんでした。北に行くとどんどん夜も長くなっていくのを感じました。シアトルではふと日本語の本や芸術品を見かけることがあり、不思議に思っているとジャパントウンというものが近くにありました。どうやら神戸市との姉妹都市があるみたいです。日本のスーパーもありました。久しぶりに牛丼を買って食べました。シアトルは海沿いの素敵な都市でした。市場のようなクリスマスマーケットのような露店が並んでいる通りは活気があり楽しい雰囲気でした。きっと誰かと一緒に歩いたら絶対楽しいだろうなと思ったりしました。バンクーバーへはAmtrakが続いていますが、国境を超えるので久しぶりに入国審査もありました。ただ、夜に駅に着いた時から何やら怪しい雰囲気があり、ホステルに向かう途中で路上生活者や薬物使用者だと思われる人が多く屯していました。それも明らかにこれまでのアメリカの都市よりも多かったのが驚きました。さすがに、道を引き返すこともありましたが。また、ホステルの向かいのお店でコーヒーを買おうと店員さんが日本人だったり、ワーキングホリデーで日本から多くの人に来ていました。貧困や薬物の問題を無視すると、バンクーバーは美しい自然と入り江に囲まれた高層ビル街の洗練された都市でした。

次の日やっと、スキー場のある町まで行き、友達に会えました。やっと移動から解放された思いでした。久しぶりにたくさん日本語で話しました。そして約一年ぶりにスキーをこの地でできたのは良かったのですが、チケット代とレンタル代が高く結局一日しかできませんでした。ほぼ全部で3万円くらいしました。日本では多分1万円くらいで収まります。カナダ政府には国民のメジャーなウィンターアクティビティをもっと多くの人を楽しめるようにしてもらいたいです。

数日滞在させてもらってからフロリダへの帰路に着きました。正直、また長時間列車の中で過ごすのは嫌で飛行機も探しましたが、ホリデーシーズンなので買えるわけもなくしぶしぶ計画通りとなりました。まずは、西海岸を南下してロサンゼルスまで行きます。ロサンゼルスも街は夜に歩かないほうが良いと感じました。でもホステルでは静かにぐっすり寝られたので良かったです。またちょうど丸亀製麺があったので久しぶりに日本の味を楽しみました。次のシカゴまでの路線は大陸を斜めに渡ります。おそらく60時間以上は乗りました。それもシカゴは歴史的にアメリカの鉄道による物流の中心なので、西側の路線に乗り換えるためにどうしてもシカゴで乗り換えなくてははいけません。再びシカゴに着いて、今度はホステルで一泊しました。ここはシャンパーもついていたのでラッキーでした。シカゴは歴史的にポーランドからの移民が多いみたいです。ポーランドは島大に来ていた留学生の事もあり、なじみ深いのでポーランド博物館というものにも訪れました。ただ、ここにきて寒さで急におなかが痛くなりました。日本と違ってトイレに鍵があったりお店に気軽に貸してもらえないので死ぬかと思いました。そんなこんなでやっと次の列車でフロリダまで帰れます。もう一刻も早く帰りたかったです。今更ですが、日本とは違って公共交通機関であっても電話も会話もお構いなしです。日本だったら絶対注意されてるので、逆にこれが普通だとしたら寛容なのか鈍感なのか…。これは留学全体を通して言えますが様々な人種、体形、風貌の人がいる多様さはアメリカのいいところだと思います。日本では変わった目で見られるだろうなという人にも誰もが気にせず挨拶したりします。しかし、日本では公共の場では周りに合わせる空気があるので、そういう中で育ってきた自分にはどうしても気になります。アウェイな気持ちにもなります。やっぱり自分は日本人だなと勝手に思いながら列車に揺られていました。

12月31日の朝、何とかフロリダに戻り、バスで大学まで帰ってきました。最初はうまく行くか不安でしたが、出会った人と話したり一緒に歩いたりしたことが良い思い出になり、これからの自信にもなりました。当分誰もいないので寮ではゆっくりできそうです。



